東京医療保健大学学報

こころ

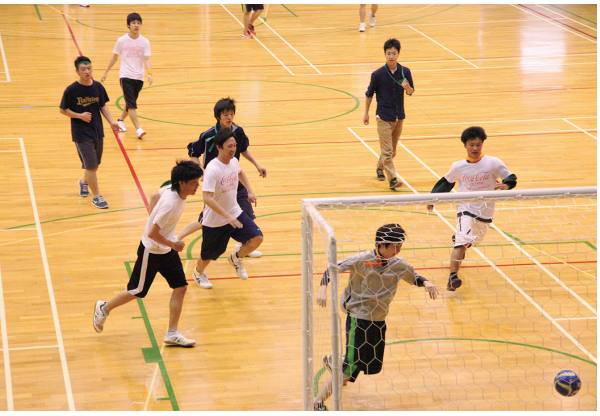
THCU Chronicle Heart No.16 Summer 2013

第16号

開学9年目を迎え、更なる発展を目指していきます。

東が丘看護学部の入学定員増を行います。

平成25年度　東京医療保健大学・大学院入学式



スポーツ大会におけるフットサルの一場面

新入生合宿研修におけるグループ発表

CONTENTS
目　次

2　学位記授与式・修了式・入学式

3　学生のメンタルヘルスに関する教職員対象の研修会を実施して 他
医療保健学部　看護学科

4　新学科長からのご挨拶
医療保健学部　医療栄養学科

5　シアトル研修 他
医療保健学部　医療情報学科

6　看護を「科学」として捉える 他
東が丘看護学部　看護学科

7　周手術医療安全学領域の設置について
大学院　医療保健学研究科

8　将来の産科医療を担う助産師の育成をめざして 他
大学院　看護学研究科

9　平成25年度入学者選抜状況

10　平成24年度４年次学科別進路状況

11　海外研修

12　Topics

学位記授与式及び修了式並びに平成25年度入学式を実施

平成25年３月９日(土)に学位記授与式及び修了式、４月２日(火)に入学式を挙行しました。

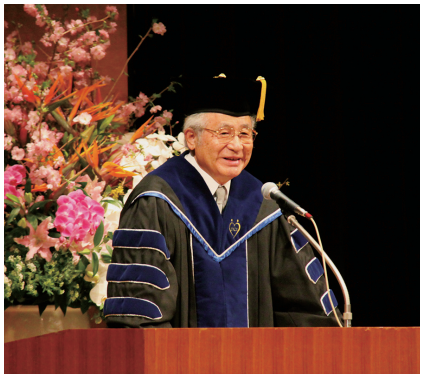
学位記授与式及び修了式は、千代田区の砂防会館において、卒業生及び修了生336名が参加し、式典終了後には、ホテルニューオータニにおいて、「卒業を祝う会」が実施されました。また、入学式は、五反田のゆうぽうとホールにおいて挙行しました。

入学式では、木村哲学長の式辞、田村哲夫理事長の告示に引き続き、御来賓祝辞としてNTT東日本関東病院 落合慈之院長、独立行政法人国立病院機構 桐野高明理事長及び品川区 濱野健区長から新入学生に激励の言葉をいただきました。

この後、入学生を代表して、大学院医療保健学研究科修士課程の三谷嘉章さん、東が丘看護学部の山本早希さんがそれぞれ挨拶を行うとともに、在学生を代表して学友会会長の黒川梨香さんが歓迎の言葉を述べました。

式典は、在学生コーラスによる校歌斉唱の後、閉会となりました。その後、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 バイスプレジデントであり、本学客員教授である岡田敏行様から「これからの医療を担う君たちへ」と題する講話が行われるとともに、上野昭子後援会会長から後援会の説明があり、終了しました。

木村 哲 学長



田村 哲夫 理事長

独立行政法人国立病院機構　桐野 高明 理事長

NTT東日本関東病院　落合 慈之 院長

品川区　濱野 健 区長

ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社
岡田 敏行 バイスプレジデント

東京医療保健大学・大学院入学者数

●学部

医療保健学部	看護学科	106名
	医療栄養学科	107名
	医療情報学科	91名
東が丘看護学部	看護学科	103名
計		407名

●大学院

医療保健学研究科	博士課程	２名
	修士課程	25名
看護学研究科	修士課程	31名

●助産学専攻科

助産学専攻科		21名

学生のメンタルヘルスに関する教職員対象の研修会を実施して

本学では、主に教員一人一人の教育力、指導力の向上を目指して、FD委員会を中心に組織的な活動を行っています。平成24年度は、昨今話題となっている学生のメンタルヘルスに関する研修会を、キャンパスを超えて全学教職員を対象に３回実施しました。講師は、東京大学大学院教育学研究科身体教育学コース、健康教育学分野教授の佐々木司先生です。先生は精神科の医師でもあり、東京大学学生相談ネットワーク本部の仕事も兼任され、学生のメンタルヘルスに関して非常にご経験豊かな先生です。第１回目は、本学の教職員が学生のメンタルヘルスに関しての基礎的な知識を得るという目的で、５月30日（水）、佐々木先生から「大学生のメンタルヘルス」というテーマで大学生によくみられる精神疾患、自殺の問題、環境への適応と生活の問題等についてわかりやすく講義していただきました。本学の教職員合わせて87名が参加しました。これを受けて、第２回は９月26日（水）に、今度は具体的な事例をもとに、本学の教職員が小グループに分かれて日頃学生への対応で困っていること等を中心にディスカッションを行い、その後全体で内容を共有し、講師の佐々木先生からアドバイスをもらいました。教職員あわせて64名が参加しましたが、グループワーク形式をとったことにより、より具体的な内容まで話ができ、教職員それぞれが今後本学でどのように学生支援のシステムを作っていけばよいのかを考える機会にもなりました。第３回目は、本学での具体的な仕組みつくりにつながる内容として、年度末の３月７日（木）に「学生のメンタルヘルスに関するシステムづくり（パンフレット作成を中心に）」というテーマで、同じく佐々木先生から東京大学での具体例をお話しいただいた後、本学の教職員が小グループに分かれて、本学においては今後学生のメンタルヘルスに関してどのような取り組みができるかについて話し合いました。その後各グループから発表を行い、佐々木先生からコメントをいただきました。この研修会は、本学において今後どのように学生のメンタルヘルスに取り組んでいくのか、教職員それぞれが考える良い機会となりました。参加者は66名で、参加した教職員からも情報共有できたことに対して高い評価を得られました。今回の研修の学びを活かし、教職員一丸となって本学学生へのサポートにつなげていきたいと考えております。

医療保健学部看護学科　教授　横山（よこやま） 美樹（みき）

学生のメンタルヘルスに関する研修会の研修風景

若手教員向けFD研修会「キャリア形成における課題と方策」を終えて

近年、急増してきた看護系大学においては、教育体制や教育の質を保証するための課題はさまざまであり、FD（Faculty Development）のニーズもまた多様であるとされています。看護学科FD委員会も、これまで教育や研究能力の向上、若手教員のFD活動促進などに取り組んできました。なかでも今年度は、臨地・臨床実習における学習支援活動、講義・演習の補助、各種委員会活動などといった多岐にわたる職務のなかで、将来を見据えたセルフマネジメントを求められる若手教員を対象とした研修会を企画しました。

平成25年３月27日（水）、看護学科の若手教員（助手・助教）を対象としたFD研修会「キャリア形成における課題と方策」を開催しました。その目的は、キャリア形成に関する先輩教員の体験談やグループディスカッションを通じて、若手教員がこれまでの大学教員としての活動を振り返り、自分自身のキャリア形成における課題と方策を見出すことができることとしました。

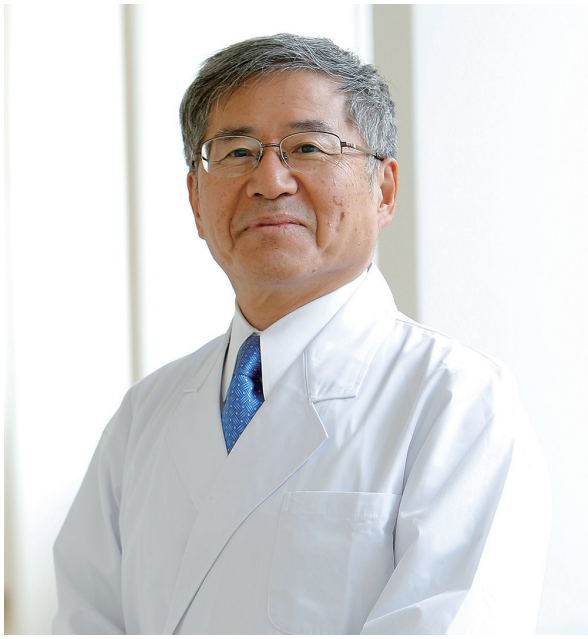
研修会に参加した若手教員17名は、先輩教員の体験談（キャリア形成の基盤となる社会人基礎力、篠木教授；臨地・臨床実習における教育実践の重要性、岩﨑准教授；教員と学生を両立しながらの博士後期課程修得、阿部）を聴いたのち、４つのグループに分かれ、これまでの大学教員としての活動を振り返りながら、自分自身のキャリア形成における「課題」として気づいたことや方策について話し合いました。グループディスカッションには、有志の先輩教員も参加し、若手教員の気づきや学びが深まるように働きかけました。

その結果、若手教員は、研修会での学びとして、自分自身のキャリアビジョンや計画を明確にして日々の職務に主体的に取り組むことが重要であると述べていました。また、多くの先輩教員からの励ましや助言、若手教員同士での話し合いを通じて、あらためてキャリア形成を支える環境にいることを実感できたようです。

医療保健学部看護学科　准教授　阿部（あべ） 桃子（ももこ）

若手教員向けFD研修会の研修風景

新学科長からのご挨拶



私は４月１日より東京医療保健大学医療栄養学科長としての勤務をスタートしましたのでご挨拶申し上げます。

東京医療保健大学は創立８年の非常に新しい、若々しい、そして活気にあふれた医療教育を専門とする大学です。医療栄養学科は看護学科と医療情報学科とともに医療保健学部の３本柱で、管理栄養士の資格をえて、栄養面から深く医療に関わるべき学生を育成しています。

いま栄養学は目覚ましく進歩し、病気を治すだけでなく、予防するために、そして健康な生活を送るために重要です。病院で患者さんに対してだけでなく、社会において、日常生活において栄養学は大変重要になっています。

私のこれまでの40年間の胃がん・食道がん・大腸がんを中心としてメスを握る消化器外科医生活を振り返っても、この40年間に外科での手術も大きく変化しましたが、栄養管理も大きく変化し発展してきたことを実感してきました。

「中心静脈栄養」と呼ばれる、口から一口も食事ができなくても、体の中心にある太い静脈から点滴で高濃度の糖分を補給できて、長く生きることのできる高カロリー輸液が、この40年間で大きく発達しました。また現在では「中心静脈栄養」よりも、より自然に近い生理的な「経腸栄養」、口から･鼻からあるいは胃や腸に直接細い管を留置して、口から食事をまったく摂取できなくても生活できる「経腸栄養」が広く行われるようになりました。ひとりひとりの患者さんで病状は異なります。適切にこれらの「中心静脈栄養」と「経腸栄養」を選ばなければいけません。それは管理栄養士の重要な仕事です。患者さんだけでなく､病院だけでもありません。広く、介護施設や老人ホーム、そして自宅での在宅医療でも、高齢者や長期的なケアを必要とする方々に対して、このような適切な管理栄養士の仕事が求められています。

病気を治すだけでなく予防面からも、健康な生活を過ごすためにも医療栄養学の発展が期待されています。私自身は６年前に胃癌を治しましたが、早期に発見したおかげでまったく元気です。４mmの小さな胃癌でしたので、内視鏡で切除し、そのまま胃が残っています。手術の跡もありません。しかし残った胃に癌が再びできる可能性があります。

私は再び胃癌ができないための予防のために食事生活を改めました。食事内容を大きく変えました。塩分の高い食事をしている青森県・秋田県に胃癌が多く、塩分摂取の少ない太平洋側の岩手県に胃癌の発生が少ないことはよく知られています。私は塩分を減らし、よく噛んで、胃に負担をかけないようにして、胃癌に再びかかることがないように生活を変えました。これが正しいかどうか、皆さんと一緒に医療栄養学をこれからもっと勉強しようと思っています。

学生諸君に申し上げます。よく学び､よく遊んでください。遊ぶことは重要です。クラブ活動などの課外活動にも積極的に取り組んでください。学生時代の４年間は皆さんの長い人生において、貴重な４年間となるはずです。「よく学び、よく遊んでください。そしてよい友達を作ってください。」大学での友達は、これからの諸君の人生に長く付き合える友であり、とくに苦しいとき・困ったときに自分を支えてくれる友達となります。よく学び､よく遊ぶ中で「よき友達」を作ってください。本年から、医療栄養学をスタートする私も同じ気持ちです。私と一緒に、よく学び、よく遊び、よい友達を作りましょう。

医療保健学部医療栄養学科長　小西（こにし） 敏郎（としろう）

シアトル研修報告

医療情報学科の専門職育成研修である５回目のシアトル研修を終えました。日程は、2013年２月18日（月）～ ３月４日（月）で７名の学生（２年生５名、３年生２名）と２名の教職員が参加しました。今回も、アメリカワシントン州の医療機関、大学機関、医療の質評価を行うNPO法人を中心に研修が構成されました。

シアトル研修開始以来受け入れていただいているタコマコミュニティカレッジでは、学生間で双方の学習や研究の成果発表会を行い、英語でディスカッションを行い、交流を深めました。ワシントン大学ノースウエスト病院やグループヘルス病院では、医療現場でのかなり進んだ情報システムの活用や開発、地域連携の仕組み、医療シミュレーションの最先端を学ぶことができました。本研修に複数回参加していても、毎回新しい発見と驚きがあり、その知見の深さに多くの学びがあります。

これらは、まさに本学医療情報学科が取り組める課題であり、リーダーシップを発揮できる分野でもあります。その新しい成果、知見、見解を発信すべき内容であると考えます。

このようなかけがえのない成果を多くの学生が得られ、シェアできることは学生生活の中で貴重な経験となります。今後も多くの学生にご参加いただきたいと期待しています。

医療保健学部医療情報学科　講師　瀬戸（せと） 僚馬（りょうま）

ロボットシミュレータによる医療安全の学習

病院内のサーバセンタにて

資格の取得に向けて

医療情報学科では、①ITパスポート、②基本情報技術者、③医療情報基礎知識検定、④医療情報技師、⑤診療情報管理士の資格取得を目指しています。経済の状況に伴い就職環境は大きく変化します。医療情報学科の取り組みとして、病院実習や企業実習などの実践的教育、医療と情報のそれぞれを十分に学習できる教育体制、海外研修などの国内外の幅広い知見を得る機会の提供、資格取得に向けた講座など積極的に行っています。学習環境は確実に整備されつつあります。学生には積極的に上記５つの資格取得に取り組み、将来の夢を実現できる力を身につけてほしいと思います。

（医療保健学部医療情報学科　教授　山下（やました） 和彦（かずひこ））

卒業生の声

本学医療保健学部医療情報学科を卒業した後、慶応義塾大学大学院の理工学研究科に進み修士を修了しました。在学中には、医療情報技師、診療情報管理士をはじめ様々な資格にチャレンジし、取得できました。その甲斐あって、今年の４月から病院の医療情報課で働いています。現在は、院内のコンピュータ保守管理をはじめ、電子カルテからのデータ抽出、医療データの２次利用プログラム開発などを行っています。直接患者さんと関わることは少ないですが、地域の方々や医療スタッフの方々を裏から支える仕事ができ、やりがいを感じています。今後は、医療データを的確かつ迅速に処理できる医療情報の専門家である“アナリスト”を目指し、医療の質向上に貢献できるように頑張ります。

（医療保健学部医療情報学科　３期生　小池（こいけ） 麻美（あさみ））

病院の地域救急センターの前にて

看護を「科学」として捉える

―臨床検査学演習―

臨床検査学演習は、臨床検査を見学したり、実際に自分で検査を行うことによってその原理と意義を理解すると同時に、検査で得られる情報と病態の関係を考察することを通して、看護学の基礎的な知識であるヒトをより深く理解できるようにすることを目標にしています。具体的には「病院における検査の実際」「病理組織学検査」「臨床生理学検査」「臨床化学検査⑴」「臨床化学検査⑵」「放射線検査」「染色体検査」の項目に分けて演習を展開しております。

「病院における検査の実際」では、国立病院機構東京医療センターの放射線科および臨床検査科において、実際に病院で行われている検査を見学します。放射線科では一般X線撮影、X線CT、MRIおよび放射線治療を、臨床検査科では生理学検査、病理組織検査、微生物検査および検体検査を見学し、医療現場では、どのような場合にどのような検査がどのように行われているのかを理解していきます。

「病理組織学検査」「臨床生理学検査」「臨床化学検査⑴」「臨床化学検査⑵」「放射線検査」「染色体検査」は、１グループ20名程度にわかれて演習を行います。

「病理組織学検査」では、解剖学と生理学の知識を整理するために、ヒトと同じ哺乳類であるラットの各臓器を顕微鏡下で観察し、各臓器の組織レベルの特徴を各臓器の機能と関連させて理解することを目的としております。光学顕微鏡は学生１名につき１台、組織標本は２名に１セットずつ用意し、さまざまな臓器を自由に観察し、構造と機能をより深く理解できるような環境を整えています。

「臨床生理学検査」では、学生がお互いに心電図を測定し、心電図検査の意義や原理を理解し、検査結果を考察します。

「臨床化学検査⑴」では、一人ひとりの学生から採血した血液を用いて、ヘマトクリット値およびヘモグロビン濃度の測定を行い、測定原理を学びながら検査値の意味を考察します。「臨床化学演習⑵」では、「臨床化学演習⑴」で採血した血液サンプルを遠心分離して得た血清を用いてトリグリセライド濃度の測定を行います。また、尿試験紙を用いてタンパク質、糖、pH、潜血等の尿検査を行います。

「放射線検査」では、身の回りにある放射線源から私たちが日常生活の中で受けている放射線の量を放射線測定器を用いて測定し、放射線の存在と量を理解することを目的としています。

「染色体検査」では、ヒトの染色体標本を顕微鏡下で観察し、疾患に特異的な染色体異常を学ぶことを目的としております。未処理の染色体標本とＸ線照射した標本を検鏡し、異常な染色体の特徴を観察して記述し、異常染色体の同定のためにどのような手順が必要であるか等を考察いたします。

この演習を通して、学生達がヒトの構造と機能、病態等を関連づけより深く理解できるようになることができることを期待しています。

東が丘看護学部看護学科　講師　小宇田（こうだ） 智子（ともこ）

１人で光学顕微鏡を操作して観察

「看護学生フォーラム」に参加して

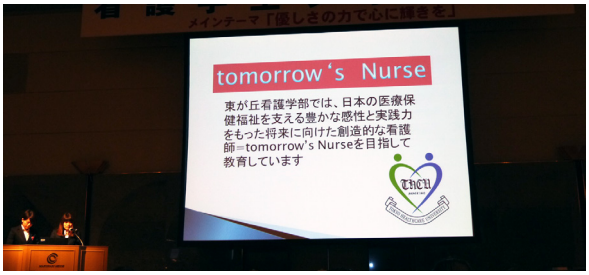
４月26日（金）、千葉県にある幕張メッセで国立病院機構関東信越ブロック看護学生フォーラムが一日を通して開催されました。関東信越にある国立病院機構に附属する９つの看護学校に我が東が丘看護学部を加え、計10校が参加しました。午前の部は主に学生が主体となり「気づきの看護」というテーマでシンポジウムが行われました。

私は、お昼休憩中に行われる「学校紹介」で東が丘看護学部について紹介しました。お弁当、飲み物が配布され、なごやかな雰囲気の中10校それぞれの学校の特徴や日々の生活などパワーポイントを使用して発表されました。東が丘看護学部については、教育理念、カリキュラム・学校生活の特徴、東が丘看護学部の魅力について発表しました。10校ある中でも大学は東が丘看護学部だけであったため、各校の様々な違いや特徴を知ることができました。この学校紹介は盛況でした。

午後の病院説明会は、病院ごとにブースが設置され、学生はそれぞれ興味のある病院をまわり説明を受けたりパンフレットをもらったり、病院ごとに行われている体験コーナーで看護技術を体験しました。例えば東が丘看護学部に隣接している東京医療センターによる体験コーナーは救命救急で働いている現場の看護師の方々による救急時のトリアージ体験でした。学生各自が興味のある病院で活躍している看護師さんの現場からの話しを聞いたり、病院の説明をうけると自分の将来像への想いも強くなり、もっと頑張ろうというモチベーションアップにもつながりました。

勉強や実習で辛い日々もありますが、「看護学生フォーラム」に参加して自分たちには同じ夢に向かうこんなにも多くの仲間がいるということに気づかされました。それと同時にフォーラムに参加する姿や学校紹介での日々の様子から、看護に対する想いや勉強に対する姿勢など様々な面から刺激を受け、自分ももっと頑張ろうという励みになりました。今回の交流は、看護に対する視野がぐっと広がり、これからの私の看護学生生活においてとてもプラスになる良い経験になりました。

東が丘看護学部看護学科　３年次生　松尾（まつお） 美裕（みゆう）



学校紹介で大学の理念をアピール

周手術医療安全学領域の設置について

大学院医療保健学研究科は、2007年４月に修士課程に看護マネジメント学、感染制御学、医療栄養学及び医療保健情報学の各領域を開設し、2012年４月に助産学領域を設置しました。また、2009年４月には博士課程感染制御学を設置しました。これらに加えて、このたび2013年４月から修士課程及び博士課程に「周手術医療安全学」領域を設置しました。

医療現場では、手術にまつわる領域での患者安全の質向上が喫緊の課題となっています。医療事故報告やインシデント報告において、周手術医療にかかわる事例が占める割合は高いものです。この領域には、医療の質の向上を求めて、解決していかなくてはならない課題が山積しています。

近年、手術術式がますます複雑かつ高度化する中で、ハイリスクの患者様にも侵襲の大きい手術を実施しなければならない状況が増加しています。周手術医療の中でスタッフは、技術の修得のみならず適正な人員配置や業務分担についても模索している状況です。

医療現場はもちろん、日本手術医学会や日本医療機器学会、日本生体医工学会、日本手術看護学会、日本臨床工学技士会などから、周手術医療に関する専門的知識及び問題解決能力を有する人材の育成が求められています。これらの要求に一歩でも近づくために本領域を設置することになりました。

この領域での主な研究テーマとして、手術部の施設・設備である電気機器や空調設備、手術部の運営と手術計画、手術関連情報の処理、患者安全対策、職業感染対策、手術室内環境整備、器材の管理など多くの課題が挙げられます。

本領域の対象者として、臨床工学技士、手術部看護師とその管理者、滅菌技師/士（第１種、第２種）を含む滅菌供給部門スタッフ、臨床検査技師、診療情報管理士、病院設備に係るホスピタルエンジニア、環境整備に係るファシリティマネジャーなど、周手術期の患者安全とチーム医療の推進のために貢献できる医療現場及び関連企業の方々が挙げられます。

本領域では、これらの学際性と専門性を追求し、手術部運営に不可欠な資質と創造的問題解決能力を兼ね備えた人材を育成いたします。その結果、医療系はもちろん、臨床工学分野、微生物学分野、手術看護学分野、滅菌技師/士の分野を包含し、これらの研究･教育･実践・マネジメント能力を修得することが可能です。

医療保健学研究科医療保健学専攻　教授　大久保 憲（おおくぼ たかし）

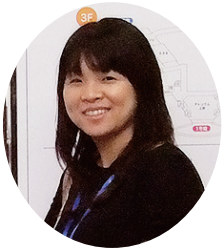
院生の声

私が大学院に進学しようと思ったきっかけは自分の周囲の人から刺激を受けたことでした。看護協会のファーストレベルの同期生がそれぞれ大学院進学や資格取得､セカンドレベルの受講など､ステップアップするために頑張っており、自分もなにか行動しなければと感じていました。また、同じ職場（病院）に大学院に進学した先輩方がおり、考え方や研究に取り組む姿勢などを見ていると自分には足りないところがたくさんあることに気づかされました。職場の先輩方に「大変だけど、大学院に進学すれば絶対自分のためになるよ」と背中を押されて入学を決意しました。

大学院では、医療・看護マネジメント（人材育成、活用、リスクマネジメント、質管理等）・医療経済・政策などを体系的に学んでいきます。ディスカッションやプレゼンテーションが中心となるため、課題について事前準備をし、自分の考えをまとめ、いかに伝えるかを考えなくてはいけません。伝えることの難しさを知り、また自分が気付かなかったことや違う見方を知るということは非常にプラスになりました。仕事をしながら課題に取り組んでいくのは大変な努力を必要としますが、それだけやりがいもあります。

また研究に取り組むということも大学院で学ぶ重要な目的です。日頃、なぜこういう現象が起こっているの？なにか他に方法があるのでは？などの疑問や問題だと感じていることがあっても、つい日常業務に流されて追求してきませんでした。本格的な研究も経験していないので、今回２年間かけて取り組んでいきます。現在、私は子育てをしながら働く看護師のワーク・ライフ・バランスとキャリア継続について研究を進めていますが、正直なところ大変進行が遅れており先生方にご心配をおかけしています。テーマを絞り込むことで躓き、先が思いやられますが頑張っていきたいと思います。

医療保健学研究科　修士課程２年　看護マネジメント学　宮崎 由紀（みやざき ゆき）



東京医療保健大学大学院で学び始めて１ヶ月が過ぎました。大学院と業務の両立は未だに大きな課題ですが、焦らずに自分を環境に適応させていこうと考えています。私が大学院進学を決意した理由はいくつかありますが、自分自身を「学ぶ環境」､「研究する環境」に置くことが必要だと感じたためです。仕事を始めると様々な役割を担うようになります。それらはすべて自分自身を大きく成長させてくれました。しかし、業務だけではなく、専門職として幅広い知識を修得し、臨床の場で活用できるような研究をしたいという思いが次第に大きくなりました。手術室での看護はあまりよく知られていません。「医師にメスなどの器械を渡す人」という印象が一般的です。しかし、手術室での看護は多岐に亘ります。術式の理解はもちろんですが、長時間にわたり同一体位を強いられる患者さんに神経損傷や褥瘡を発生させないための技術、体内遺残や部位間違えなどのアクシデントから患者さんを守るための技術、麻酔に関連した知識と麻酔医を介助するための技術、そして極度の精神状態にある患者さんに寄り添う看護など限られた時間の中で看護を提供しています。私は手術室で働くようになって10年目になりますが、看護師人生の中で手術看護と出会えたことを嬉しく思うと共に手術看護の質の向上に少しでも役立てれば幸いと思っています。そんな私にとって､周手術医療安全学の開講は待望の出来事でした。偶然参加した研修で開講に関する話を耳にしてからは毎日のように本学のホームページをチェックしていました。現在このように大学院に通えていることが本当に夢のようです。

これからの２年間、厳しくも大変な道のりになるかもしれませんが、豊富な専門的知識を有する諸先生方にご教授いただき、そして様々な職場から学ぶことを求めて集った大切な同期の方々と共に学びを深めていきたいと思っています。

医療保健学研究科　修士課程１年　周手術医療安全学　大西 真裕（おおにし まゆう）

将来の産科医療を担う助産師の育成をめざして

大学院看護学研究科看護学専攻修士課程には高度実践看護コースと高度実践助産コースの２つのコースがあります。今回、高度実践助産コースについて紹介させていただきます。

このコースには、「助産師プログラム」（既に助産師の資格を有する方々がさらに知識や技術を高めるプログラム）と「免許プログラム」（助産師免許を取得するためのプログラム）があります。

「免許プログラム」では、看護師免許取得後、大学院２年間をかけて、助産師になるための知識や技術を学びます。日本の保健師助産師看護師法では、助産師になるための教育は１年以上と規定されておりますが、本学大学院ではこれからの産科医療の一端を担うことができる専門性の高い助産師を養成することを目指し２年間の大学院教育を行っております。

近年、子育ての難しさや産科医不足による生む場所がないなどの日本の産科医療をめぐる問題が多々指摘されるようになりました。そんな中で助産師の果たす役割への期待が高まっています。

助産師は、正常な妊娠、出産、子育てを自律して支援できる資格です。少子化の中で、助産師には、出産体験に女性と家族がかける期待と不安に応え、医学的に安全であるとともに、多様化するニーズに応じた質の高いケアを提供する役割が求められています。さらに、異常を早期に発見し医師と連携する要の役割も果たし、緊急時には自ら臨時応急の処置を施す能力も求められます。

このような役割を果たすためには、助産師は高度な専門的知識と確かな診察およびケア技術を習得していなければなりません。研究能力や科学的思考を持った助産師としてリーダーシップを取り、日本の産科医療を質の高いものへと変革できる助産師の育成のため、カリキュラムの中では病院や助産院での実習を多く取り入れているとともに、科学的根拠をしっかり把握するため、エビデンスを探究する科目や研究を同時に行っていきます。また、医師である臨床教授に指導していただく演習や実習科目を配置し、助産師の知識と技術の深化を図り、将来の医師と助産師の連携医療のあるべきシステムの構築を希求しています。

保護者の皆さんが、将来を見通して、お子さんたちの選択する進路として、高度実践助産コースをご検討くださることを心から願っています。

看護学研究科看護学専攻高度実践助産コース　教授　大石（おおいし） 時子（ときこ）

助産師にとって全身のフィジカルアセスメントも重要！

特定看護師に必要なチームパフォーマンスを向上させるためのシミュレーショントレーニング

大学院看護学研究科看護学専攻修士課程　高度実践看護コースは、高度な判断と実践ができるクリティカル領域の特定看護師の育成を目指しています。クリティカル領域の特定看護師は、総合病院等の救命救急領域やICUなどの集中ケア領域、あるいは急変患者などハイリスクな状況にある緊急度の高い患者さんに対し、高度なケア（専門的支援）とキュア（診療）を提供できる能力を持った看護師です。そのため、本コースのカリキュラムは、状況を総合的に判断し、必要なケア・キュアをタイムリーに提供できる能力の育成を主眼に置いて編成しています。１年目は、主に医師である臨床教授によるチーム医療、検査、診断、治療方法等に関わる講義・演習が行われます。１年目の終了時に１年間で学んだ知識・技術の達成度等を自己および他者評価し、チームパフォーマンスを向上させるために２日間のシミュレーショントレーニングを実施しています。

３期生21名のシミュレーショントレーニングは、2013年は２月27日（水）、28日（木）に実施しました。場所は、神奈川県足柄上郡にあります日本屈指の最先端医療シミュレーション施設「テルモメディカルプラネックス」です。このシミュレーショントレーニングでは、学生の看護経験と１年間で学習してきた医学的知識を活用し、急変事例（痙攣発作・胸痛の事例）および外傷事例を取り上げ、状況判断と対応について学びました。対応については、特にチーム医療の中で特定看護師としてどのようにリーダーシップ、メンバーシップを発揮するかについて学びます。学生は、シミュレーションの実施→実施直後の振り返り→自己の実践場面のDVD視聴・振り返り→他学生のシミュレーションの見学→自己の振り返りのプロセスを通して学習しました。

指導は、シミュレーショントレーニングに造詣が深い東京医療センター救急救命センター長菊野隆明先生はじめ医師が３名、看護師長、看護スタッフ３名、本大学院１期生・２期生が７名、大学職員８名で20名以上のスタッフが担当しました。

整備された環境、恵まれたスッタフによる支援を受け、学生たちは、このシミュレーショントレーニングを通して特定看護師の役割を再考するなかで、自己の課題を明確にし、５月から開始する17週間の統合実習に臨みます。

看護学研究科看護学専攻高度実践看護コース　岩本（いわもと） 郁子（いくこ）

臨場感あふれるなかでのチームパフォーマンス

入試結果

平成25年度 入学者選抜状況

平成25年度の入学者選抜は、大学入試センター試験利用入試（後期日程）の選抜をもってすべての日程が終了しました。
入学試験の概要は次のとおりです（入試広報部）。

【入学試験実施概要（平成24年８月～平成25年３月）】

●医療保健学部

試験区分	試験日	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
８月AO入試　（医療情報学科）	８月15日（水）	5	8	8	8	8
９月AO入試（A）　（医療情報学科）	９月９日（日）	8	1	1	1	1
９月AO入試（B）　（医療栄養学科）	９月16日（日）	10	44	43	12	12
９月AO入試（B）　（看護学科）	９月16日（日）	8	113	106	10	10
10月AO入試　（医療情報学科）	10月14日（日）	10	10	10	10	10
12月AO入試　（医療情報学科）	12月16日（日）	5	11	11	10	10
３月AO入試　（医療情報学科）	３月６日（水）	2	8	8	8	8
計		48	195	187	59	59
附属・協力校推薦入試	11月18日（日）	32	5	5	5	5
指定校推薦入試	11月18日（日）		36	36	36	36
公募制推薦入試	11月18日（日）	25	73	72	25	25
センター利用入試（前期）	１月19日（土）･20日（日）	40	884	884	258	37
一般入試（前期）	２月４日（月）	95	1043	977	232	103
一般入試（後期）	２月18日（月）	31	342	310	57	32
センター利用入試（後期）	１月19日（土）･20日（日）	9	42	42	14	7
合　計		280	2620	2513	686	304

●東が丘看護学部

試験区分	試験日	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
指定校推薦入試	11月18日（日）	15	15	15	15	15
公募制推薦入試	11月18日（日）	10	34	33	12	12
センター利用入試（前期）	１月19日（土）･20日（日）	15	415	415	114	12
一般入試（前期）	２月４日（月）	45	645	616	103	33
一般入試（後期）	２月18日（月）	10	249	225	49	29
センター利用入試（後期）	１月19日（土）･20日（日）	5	16	16	6	2
合　計		100	1374	1320	299	103

●助産学専攻科

試験区分	試験日	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
推薦入試	９月９日（日）	15	23	23	16	15
社会人推薦入試	９月９日（日）		2	2	1	1
一般入試	10月14日（日）		43	41	8	5
合　計		15	68	66	25	21

オープンキャンパス・入試説明会　８月25日（日）

2013年度のオープンキャンパス及び入試説明会を下記の通り行います。

≫オープンキャンパス（入場無料・予約不要）
- ●世田谷キャンパス …… ７月20日（土）
- ●国立病院機構キャンパス … ８月３日（土）
- ●五反田キャンパス …… ８月17日（土）・18日（日）

≫進学ガイダンス
- ●６月22日（土）

≫入試説明会
- ●世田谷キャンパス ……10月５日（土）
- ●五反田キャンパス ……11月24日（日）

≫医療情報学科　見学会
- ●世田谷キャンパス …… ８月６日（火）～ ８日（木）／ ８月19日（月）～ 23日（金）

≫医療栄養学科　学科体験・見学会
- ●世田谷キャンパス …… ８月25日（日）

≫東が丘看護学部　見学会
- ●国立病院機構キャンパス … ８月22日（木）・23日（金）

≫新高校３・２年生対象進学ガイダンス
- ●五反田キャンパス ……平成26年３月22（土）

平成24年度　4年次生学科別進路状況

1．就職状況

○文部科学、厚生労働両省による、今春卒業大学生の4月1日現在の就職率は、93.9%（昨年同期比0.3ポイント増）でした。

○本学の就職率は医療情報学科97.5%、医療栄養学科は99.0%、看護学科及び助産学専攻科については100%であり、医療保健学部3学科合計の就職率は99.1%となっております。

2．各学科の状況（平成25年卒業生）　※各学科の数字は過年度生を含まず。

(1)　医療情報学科 就職率97.5%（昨年3月末日現在 95.3%）

（人）

就職者	就職決定者		39
	未決定者		1
進学者	大学院進学者	本学	0
		他大学	1
	専門学校		0
その他			1
卒業延期者			6
総計			48

※大学院進学者　・University of Washington, School of Public Health
※その他　・専門学校進学希望

(2)　医療栄養学科 就職率99.0%（昨年3月末日現在 94.1%）

（人）

就職者	就職決定者		98
	未決定者		1
進学者	大学院進学者	本学	0
		他大学	2
	専門学校		1
その他			7
卒業延期者			3
総計			112

※大学院進学者　・東京農業大学農学研究科
・立命館大学スポーツ健康科学研究科
※その他　・資格試験、公務員試験受験に専念、短期留学等

(3)　看護学科 就職率100%（昨年3月末日現在 100%）

（人）

就職者	就職決定者	病院	95
		保健師	0
		民間企業	0
	未決定者		0
進学者	大学院進学者	本学	0
		他大学	0
	専門学校	本学	12
		他大学	0
その他			7
卒業延期者			3
総計			117

(4)　助産学専攻科 就職率100%（昨年3月末日現在 100%）

（人）

就職者	就職決定者	19
	未決定者	0
総計		19

●平成24年度各種国家試験受験結果一覧

	看護師	保健師	助産師	管理栄養士
本学受験者数	(118)	(117)	(19)	(102)
	124	128	19	102
本学合格者数	(110)	(115)	(19)	(88)
	113	124	19	88
合格率	(93.2%)	(98.2%)	(100.0%)	(86.3%)
	91.1%	96.8%	100.0%	86.3%
全平均合格率（新卒）	94.1%	97.5%	98.9%	82.7%
全平均合格率（全体）	88.8%	96.0%	98.1%	38.5%

注）（　）は新卒者で内数である。

海外研修

ハワイ大学学生との交流風景

国際交流委員会では、全学合同海外（ハワイ大学）研修を、本年３月11日（月）～18日（月）（６泊８日）の日程で実施いたしました。現地での研修受け入れ先は、例年通りハワイ大学医学部シミュレーション研究センターです。今回は、31名の学生（定員32名）が参加しました。学科別の内訳は、医療保健学部看護学科８名、医療栄養学科８名、医療情報学科６名、そして東が丘看護学部看護学科９名でした。各学科教員１名および国際交流アドバイザーの計５名で引率しました。

10月～３月の間、現地での研修に備え、土曜日の午後、ほぼ毎月１回のペースで、事前学習会を開催しました。事前学習会は、講義およびグループワーク形式で行われました。全体学習会のほか、学科別の学習会もそれぞれ適宜実施されました。

現地研修は、全学科共通プログラムと領域別プログラムで構成されました。全学科共通のプログラムは、以下の通りでした。

講義：医療英語、アメリカにおける医療安全の動向、日本と比較したアメリカの医療体制、ハワイ原住民の歴史と健康、ハワイ大学による公衆栄養プログラム

演習：シミュレータを用いた救命処置演習

見学：ハワイ大学医学部キャンパス、同シミュレーション研究センター、シュライナーズ小児病院（小児整形専門病院）

領域別プログラムでは、五反田、東が丘の両看護学科は、クアキニ医療センター訪問（講義・院内見学）、ハワイ大学看護学科/シャミナーデ大学看護学科訪問（講義とシミュレーション教育演習、現地学生とのランチ交流）を経験しました。医療栄養学科は、「食事とがん」の講義を受け、クィーンズ医療センター（QMC）を訪問し、同病院の栄養サービスについて説明を受けると同時に厨房見学もしました。また、ハワイ大学栄養学科で授業見学と学生交流も行いました。医療情報学科は、クアキニ医療センター（講義）、ダイヤモンドヘッド・クリニック（遠隔医療の講義・見学）、州立市民防災危機管理センターを訪問、ハワイ大学医学部ではアメリカの医療ITの動向についての講義も受けました。

研修最終日には、全員で高齢者施設クアキニナーシングホームを慰問し、事前に練習して準備した歌、スライド、盆踊りを披露し、高齢者との交流も行いました。

今年は現地の大学生との交流が例年以上に活発に行われ、最終日の夜には、訪問先のハワイ大学やシャミナーデ大学の教師や学生を招待して、交流お別れ夕食会を開催して、さらに交流を深めることができました。また、今年は、シミュレーション演習を全領域に拡大したために、参加学生一人ひとりがシミュレーションを使った演習に参加することができました。

最後に、本研修に関する学生アンケート結果をお知らせします。満足度は、満足・とても満足を合わせると100%、この研修を友人などに勧めるかという問いにも100%の学生が「勧める」と答えています。国際交流委員会では、今後も学生のこうした期待に応えられるように、研修内容の充実に努めてまいります。

国際交流アドバイザー　早野（はやの） 真佐子（まさこ）

気管挿管演習は全員が体験

QMCの厨房見学

１人ずつ手渡された修了証書

東京医療保健大学学報 第16号
THCU Chronicle No.16
平成25年9月30日発行
Summer 2013 Tokyo Healthcare University 4-1-17 Higashigotanda. Shinagawa-ku, Tokyo, Japan
発行／東京医療保健大学 東京都品川区東五反田4-1-17
【URL】http://www.thcu.ac.jp
【E-mail】info@thcu.ac.jp

トピックス Topics

新入生合宿研修を実施しました。

４月30日(火)及び５月１日(水)の２日間、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、新入生合宿研修を実施しました。参加者（宿泊者）は新入生398名、教職員18名、上級生16名、計432名でした。

健康で安全な大学生活を送るために必要な知識や態度に関する全体講義として、木村学長の講話を始め、マナー講座、薬物に関する講話、カルト宗教に関する講話、性感染症に関する講話がありました。学部別には、医療保健学部はキャリア教育を、東が丘看護学部は「４年後の自分」というテーマで、将来展望に基づいた学生生活の送り方について研修を行いました。４月30日(火)の夜には、学友会の企画によるリクレーションとして、大縄跳び、リレー等を行い、各学科の学生はゲームを通じて親交を深めました。

「スポーツ大会」を実施しました。

６月４日(火)駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場で、バレーボール、フットサル、ドッジボールを競技としたスポーツ大会を実施しました。参加人数は390名であり昨年の361名を上回りました。

木村学長がご就任されました

本学では、小林寛伊・前学長の任期満了に伴い、平成25年４月１日付けで、木村（きむら） 哲（さとし）学長がご就任されました。木村学長は、前東京逓信病院院長であり、本学大学院医療保健学研究科教授（非常勤）としても院生のご指導をいただいておりました。

平成25年度後援会総会及び教育懇談会を実施しました。

６月25日(火)午後６時から五反田キャンパスにて、後援会総会及び教育懇談会を実施しました。大学側から田村理事長、木村学長、各副学長など15名、後援会側は松田会長、上野前会長、岡村副会長をはじめ役員15名、一般会員42名の参加がありました。後援会総会後に行った教育懇談会においては、各学科長から教育状況の報告を行うとともに会員との意見交換を行いました。

東が丘看護学部の入学定員増を行います。

平成26年４月から、東が丘看護学部看護学科の入学定員増（100名→200名）を行うとともに、新たに臨床看護学コースと災害看護学コースの２コースを設置いたします。災害看護学コースは東京都立川市にある独立行政法人国立病院機構災害医療センターとの連携協力により防災・減災にも適切に対処できる看護師の育成を目指しております。

編集後記 Editor's note

本学は平成17年度に開学し平成25年度は９年目を迎えましたが、開学時から学長を務められた小林学長の任期満了に伴い、平成25年４月１日付けで前東京逓信病院院長の木村 哲（きむら さとし）学長が就任されました。

本学においては、建学の精神、理念・目的を実現するために教育研究組織の整備を図っておりますが、平成26年４月から、東が丘看護学部看護学科の入学定員増（100名→200名）を行うとともに、新たに臨床看護学コースと災害看護学コースの２コースを設置、大学院看護学研究科修士課程に看護科学コース（若干名）を設置、同博士課程（入学定員２名・３年制）を新たに設置、大学院医療保健学研究科修士課程に滅菌供給管理学領域を設置することとしておりますが、今後も社会からの要請に応えて実践的な教育研究体制の整備充実を図ってまいります。

今年度も７月及び８月に世田谷・国立病院機構・五反田の各キャンパスにおいてオープンキャンパス及び見学会を開催いたしましたところ、高校生・保護者をはじめ多数の方にご来場いただきました。

オープンキャンパスでは全体講演、個別相談、医療機器等展示コーナー、体験コーナー及び模擬授業が大変好評でした。今年度は11月２日(土)及び11月３日(日)に世田谷キャンパスで開催される大学祭（医愛祭）においても入試説明会・個別相談を実施しますが多数の参加が期待されます。

東が丘看護学部は目黒区東が丘の国立病院機構キャンパスにありますが、平成22年度の開学当初に地元の目黒消防署が募集する目黒区消防団に学部学生のうち希望者が応募して入団しております。目黒区消防団には現在114名の東が丘看護学部学生が入団していることから目黒区長及び目黒消防署長から大変感謝されております。消防団の活動は消防団始め式、東京消防出初式、水防訓練、消防操法大会、総合防災訓練等の活動がありますが、我が街を災害から守るとうい使命感のもと、地域の防災リーダーとして幅広い活動を行っております。平成25年６月30日(日)には目黒区消防団ポンプ操法大会が目黒清掃工場で開催されました。この大会には本学の学生団員17名が参加し、計12分団が競い合うポンプ操法とは別に「学生団員演技」の特別枠が与えられ、大地震の発生を想定した救護訓練をはじめ、小型ポンプからの放水訓練などに真剣な態度で取り組んでおりました。今後も消防団員たちの地域に根ざした活動が期待されます。